

は本種の冬期の休眠場所で糞の堆積が確認されていることから長年冬期の休眠場として利用されている場所では糞の堆積が多いことが考えられる。このことから、C洞窟の冬期の休眠場所としての利用は過去、長期間にわたるものではなく、ごく最近になってからのことではないかと思われる。

カグラコウモリ：通年利用と判断できる（最大10個体）。これまでの調査で秋期から冬期に最大約720個体の利用が確認された（平成14年11月、平成15年1月）。しかし、洞窟内には糞の堆積はほとんどみられなかったこと、その前後の調査では多数の個体を確認していなかったこと等から、一時的な避難場所としての利用であったと推察される。また、平成14年度から平成16年度に幼獣1個体が確認された。

リュウキュウユビナガコウモリ：稀な利用と判断できる（最大10個体）。

d) D洞窟

ヤエヤマコキクガシラコウモリ：通年利用と判断できる（最大約220個体）。冬期の休眠時期に最大約220個体に利用されていた。

カグラコウモリ：通年利用と判断できる（最大で推定3,000個体）。出産・哺育の時期に最大約500個体（幼獣最大約150個体）に、冬期の休眠時期に最大で推定3,000個体に利用されていた。これまでの調査で、冬期であっても小型コウモリ類が確認されなかったことがあったが、他の年は最大で推定3,000個体であり、糞の堆積状況から考えると、冬期の休眠利用も恒常的と考えられる。

e) E洞窟

ヤエヤマコキクガシラコウモリ：通年利用と判断できる（最大約290個体）。冬期の休眠時期に最大約250個体に利用されていた。

カグラコウモリ：稀な利用と判断できる（最大2個体）。